

研究レポート No.840 岩手県農業研究センター

水稻新品種「金色の風」の良食味・高品質安定栽培法

【1 「金色の風」の良食味・高品質を目指す栽培のポイント】

- (1) 移植時期は、慣行ひとめぼれと同時期です (図1)。
- (2) 基肥は窒素成分で 6kg/10a 以内とします (図2)。
追肥は、減数分裂期に窒素成分で 2kg/10a 以内とします (図2、3)。
- (3) 刈り取り適期は、出穂後積算平均気温で 950~1,050℃です (図4)。

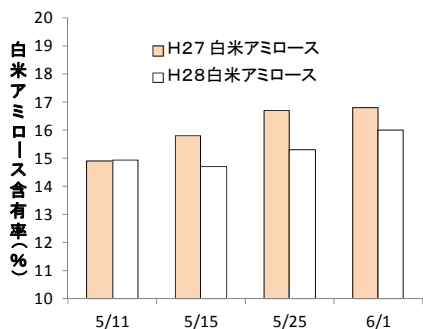


図1 移植時期別の白米アミロース含有率

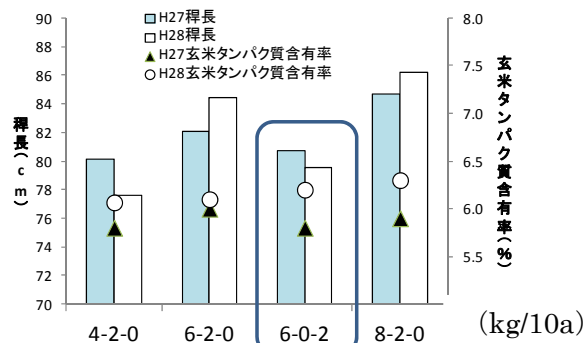


図2 施肥条件別の稈長と玄米タンパク質含有率
玄米タンパク質含有率は15%水分補正したもの。
基肥4-幼穂形成期追肥2-減数分裂期追肥0 kg/10aを4-2-0と表示。

移植時期が遅くなるほど、白米アミロース含有率が高まります。

追肥は、減数分裂期の方が、幼穂形成期より稈長が長くなり、倒伏の危険性が低くなります。玄米タンパク質含有率にはあまり差は見られません。

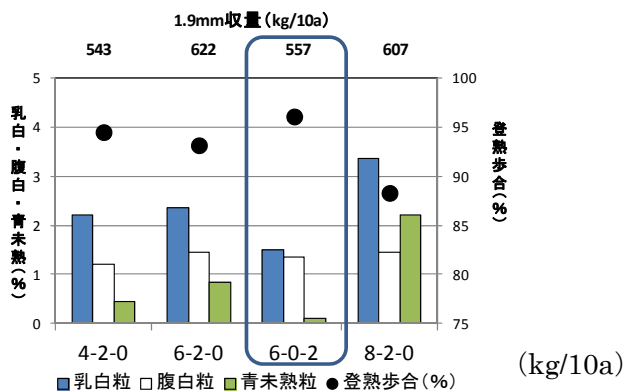


図3 施肥条件別の乳白・腹白・青未熟と収量と登熟歩合

減数分裂期に追肥をすると、乳白粒、青未熟粒が減少し、登熟歩合は高くなります。多肥栽培では玄米品質が低下します。

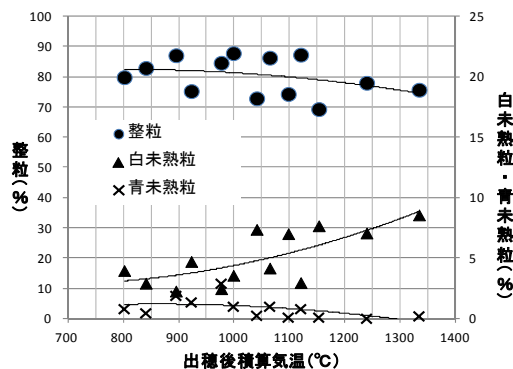


図4 刈り取り時期別の玄米品質の推移

出穂期積算平均気温が1,050℃を超えると、白未熟粒が増加し、品質が低下します。

【2 留意事項】

- (1) 本成果をもとに、『「金色の風」良食味・高品質栽培マニュアル』を作成しています。
- (2) 基肥施肥量は、地域慣行の窒素分量を考慮して加減します。
- (3) 期待生育量は検討中です。